



「頭の治療地図」体験談③

訪問医療の現場での奇跡！ 硬直しきった体が柔らかくなり 黒い皮膚に赤みが差した

本郷永華さん 41歳 あん摩マッサージ指圧師 宮城県

寝たきり女性の黒い皮膚が 生気を帯びた赤色に

私が施術を主に行っているのは、ご自宅や介護施設の訪問医療マッサージです。そのなかに「脳マッサージ」を取り入れるようになったのは、3年前からです。

初めて脳マッサージを学んだときに、学校で学んだことのない触れ方や考え方に驚くとともに、心の状態まで変化させることに感銘を受け、すぐに取り入れました。

それまで、1人あたり週に2〜3回、20分間の施術を行ってきましたが、脳マッサージを取り入れてか

ら、心身にそれまでとは違う変化が現れるようになりました。

寝たきりで体が硬直していた80代の女性は、まず、顔や手足の皮膚の色が変わってきました。血行が悪いために黒ずんだり白ざめたりしていた皮膚が、少しずつ変化してきて、2カ月ほどで生気を帯びたように赤みが差してきました。

またそのかたは、褥瘡（じよくそう）（床ずれ）予防に、ひざ下の間にクッションをはさんでいましたが、足がひどく拘縮（こくすく）して動かせないために、介護



介護施設の訪問
医療でも活用される「脳マッサージ」

スタッフがそれをはずしたり、またはさんだりするのが大変でした。それが、脳マッサージを取り入れた施術後は、足の拘縮（こくすく）がかなり緩んで、クッションを楽にはさめたそうです。

家族の不幸による 鬱症状から回復

家族にご不幸が続き、鬱になってしまった90代の女性は、脳マッサージでだんだんと気持ちが前向きになり、3カ月ほどで鬱の症状から回復し、外出できるようになりました。

施術の際に付き添っていたご家族のかたも、「触ったり、かかっていたりすることが大事なですね」と話されていました。

介護の現場では、施設の職員もご家族も時間に追われ、疲労も蓄積しています。それに加えて、どのように触れたりかかわったりすればいいのかわからず、悩んでいるかたも多いようです。脳マッサージが広まれば、優しく触れることのでき、に気づく人も多いと思います。

また介護する人たちが脳マッサージでセルフケアをすることで、穏やかな気持ちになれば、介護に対する気持ちも変わると思います。

マルマに触れると 体と心の両方にいい影響が

帝京平成大学ヒューマンケア学部鍼灸学科教授
医学博士上馬場和夫

頭部は、全身のうちで最も楽に触れ合える部位です。頭部に多く存在するマルマに触れ合うと、意識が変わり、心が変わり、体の変化も起きます。介護するかたとされるかた両方の、体と心の不調が改善する手法と言えるでしょう。